「男女共同参画社会に関する県民意識調査」(平成21年度)
調査結果概要

調査主体:高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課

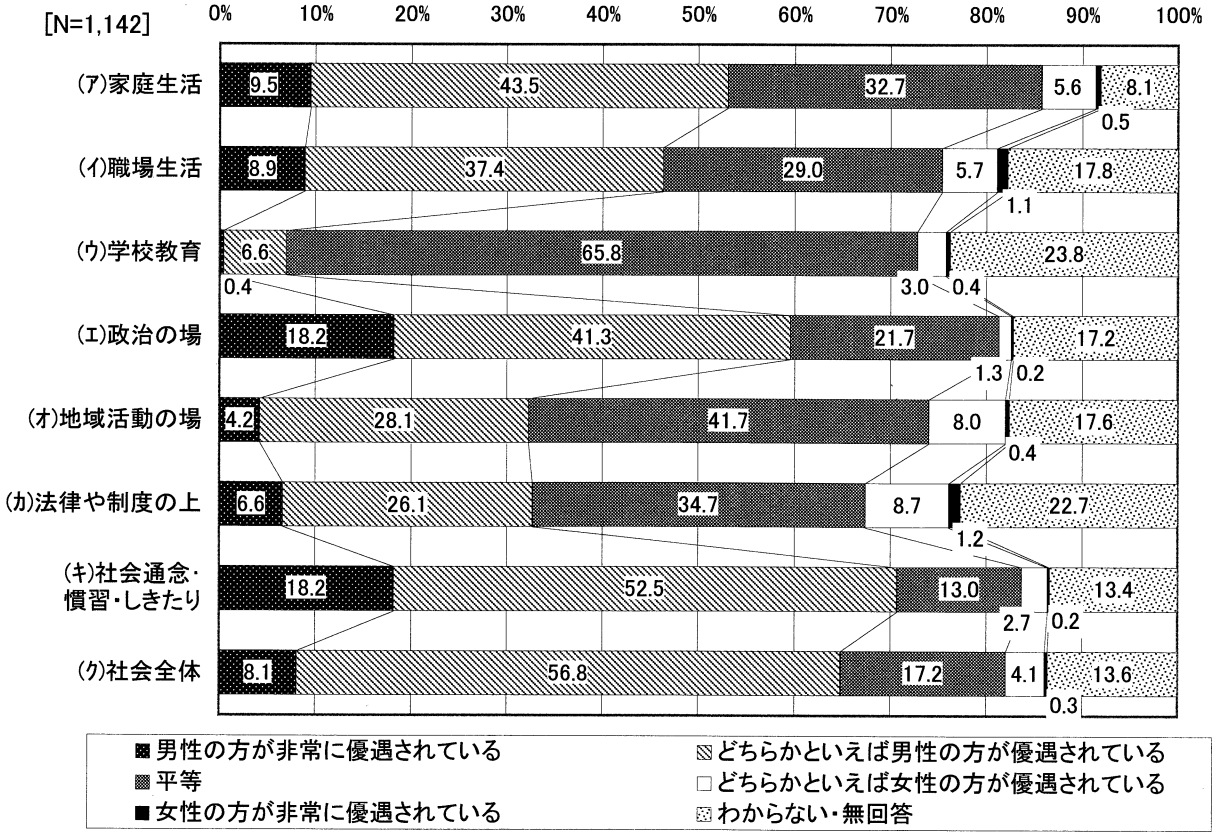
調査の目的　この調査は、高知県の男女共同参画を推進していくうえでの基礎資料を得ることを目的とする。
調査の対象　高知県内全域から満20歳以上の男女2，000人を抽出
対象者抽出方法　層化二段無作為抽出法(市町村の選挙人名簿より)
調査の方法　郵送法
調査期間　平成21年11月25日(水)～12月9日までの15日間
調査票配布数と回収状況
配布数　2，000票　有効回収数　1，142票(回収率57，1%)

※ グラフに併記した「N」は有効調査人数の実数を示し、比率(%)算出の基礎となっている。
※ グラフ内の数値は、回答人数または各回答項目に対する回答率である。なお、回答率は小数第2位を四捨五入した数値を表示している。
※ 問1は、『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)、『女性優遇』(「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)で示す。
※ 問2は、『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)、『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)で示す。

1　男女平等に関する意識について

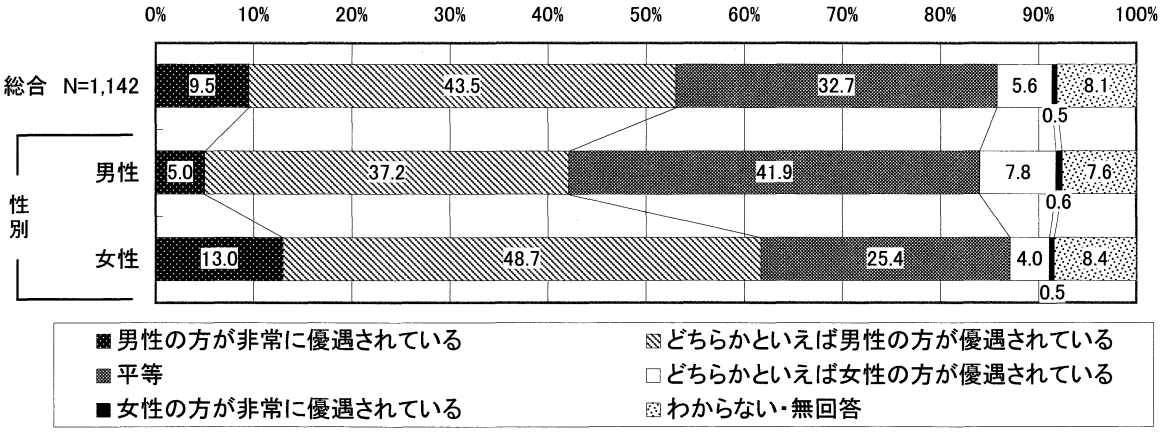
問1　分野別の男女平等意識

◆実生活での男女平等意識について、『男性優遇』は、「社会全体」では約7割を占めている。
項目別に見ると、「社会通念・慣習・しきたり」では『男性優遇』が70.7%である。
「学校教育」では『平等』が最も高く65.8%である。



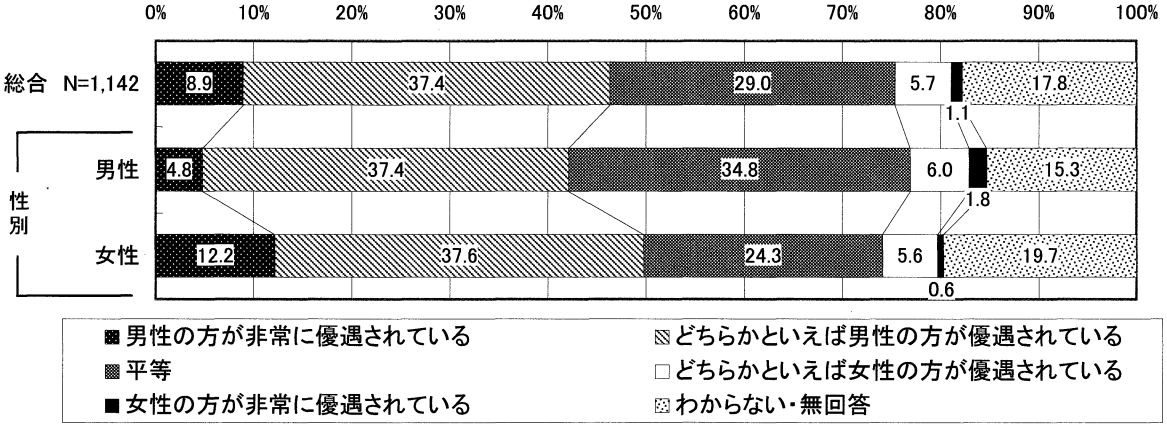
(ｱ) 家庭生活

◆『男性優遇』と答えた人の割合は総合では53.0％で、性別では『男性優遇』は女性61.7％が男性42.2％を上回り、『平等』では逆に男性41.9％が女性25.4％を上回っており、男女間で平等意識に大きく隔たりが見られる。



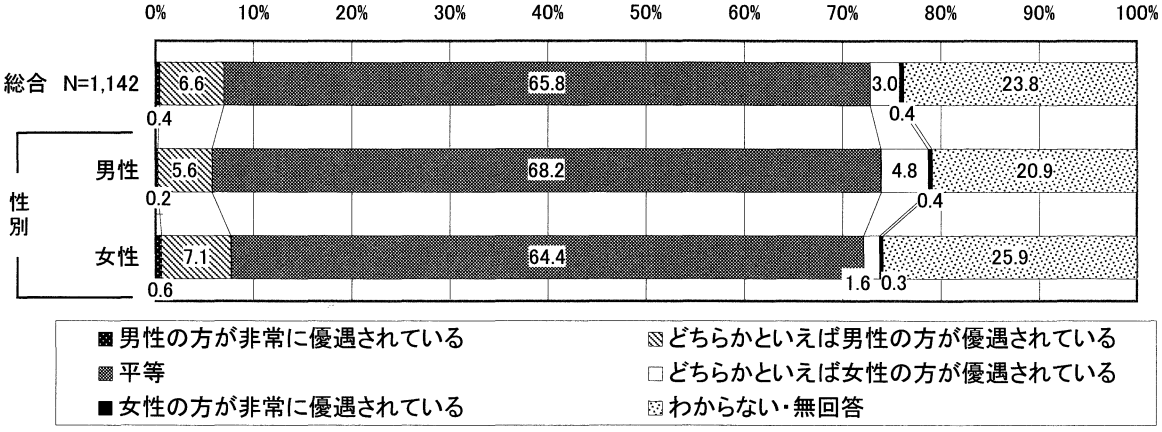
(ｲ) 職場生活

◆性別では、『男性優遇』は女性49.8％が男性42.2％を上回り、『平等』では男性34.8％が女性24.3％を上回っている。



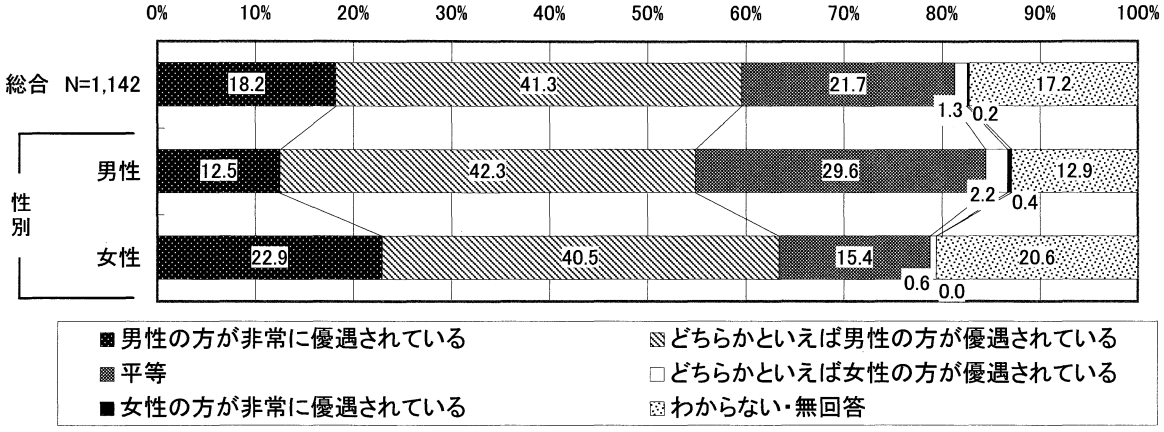
(ｳ) 学校教育

◆総合では『平等』と答えた人が65.8％と最も多い。性別では『男性優遇』は男性5.8％に対し女性7.7％、『女性優遇』は男性5.2％に対し女性1.9％と、異性が優遇されていると答えた人の比率が高くなっている。



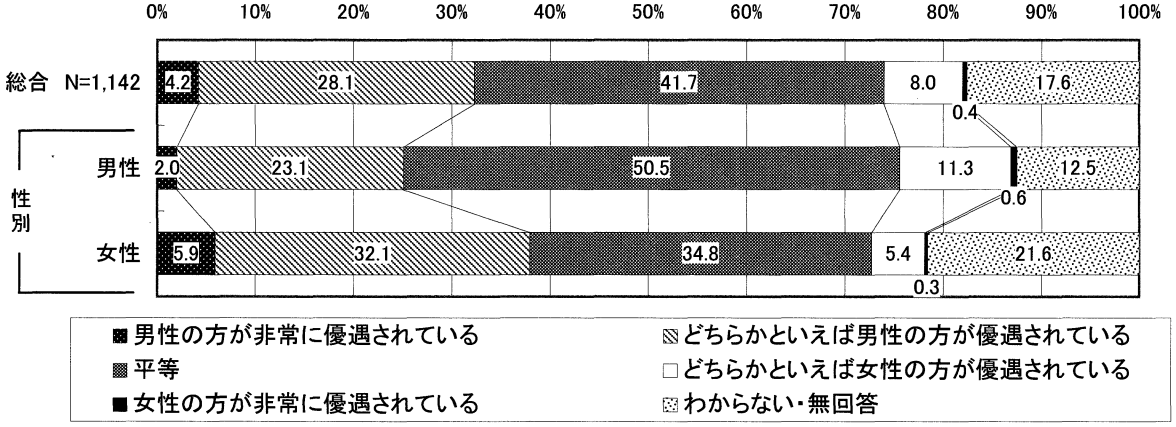
(エ) 政治の場

◆今回の調査で新しく追加された項目である「政治の場」では、『男性優遇』は女性63.4%が男性54.8%を上回り、『平等』では男性29.6%が女性15.4%を上回り、『女性優遇』では男性2.6%が女性0.6%を上回っている。



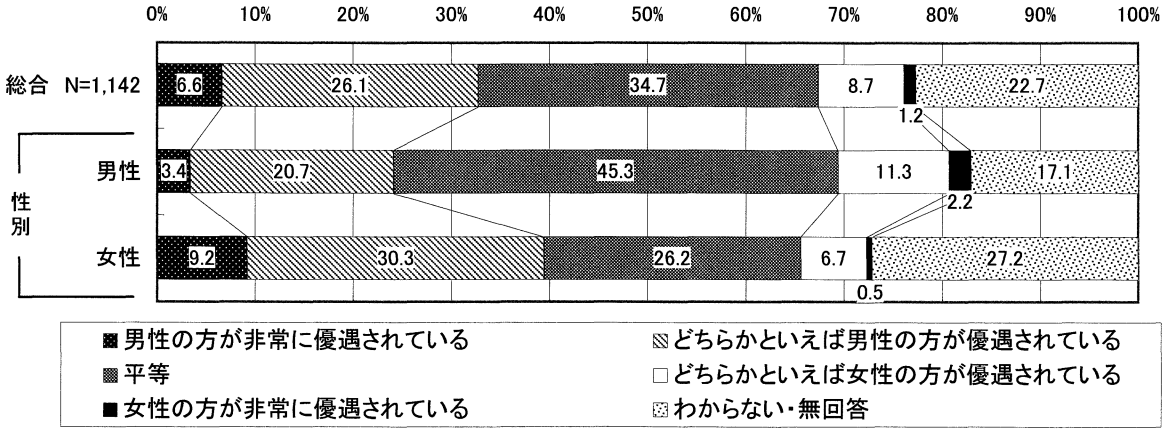
(オ) 地域活動の場

◆今回の調査で新しく追加された項目である「地域活動の場」では、性別では、『男性優遇』は女性38.0%が男性25.1%を、『平等』は男性50.5%が女性34.8%を、『女性優遇』は男性11.9%が女性5.7%をそれぞれ上回っている。



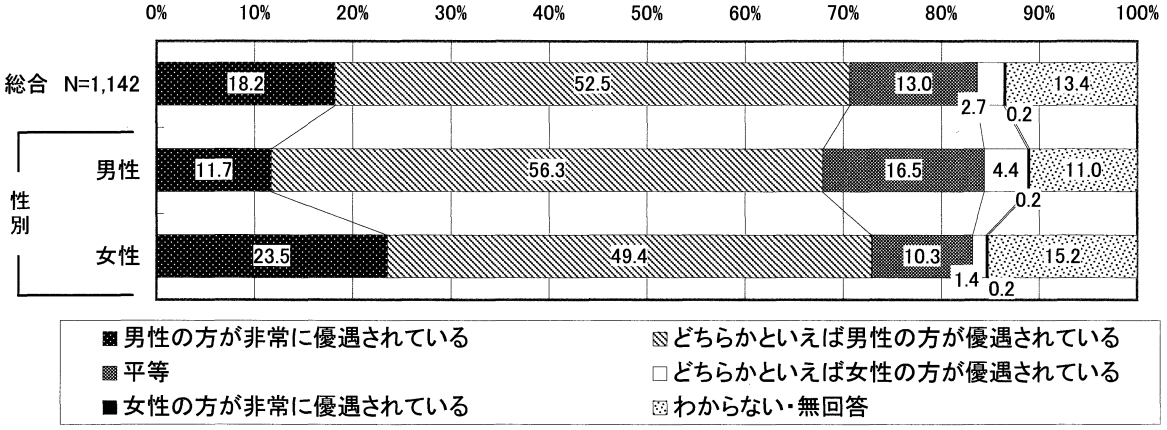
(カ) 法律や制度の上

◆性別では、『男性優遇』は女性39.5%が男性24.1%を、『平等』は男性45.3%が女性26.2%を、『女性優遇』は男性13.5%が女性7.2%を、それぞれ上回っている。



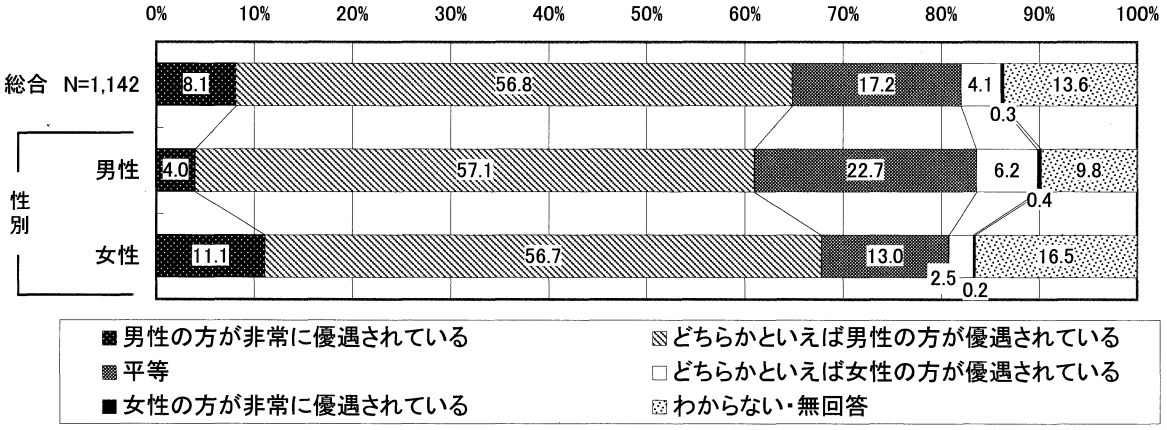
(ｷ) 社会通念・慣習・しきたり

◆他の分野と比べても『男性優遇』と答えた人が多い。性別では、『男性優遇』は女性72.9%が男性68.0%を、『平等』は男性16.5%が女性10.3%を、『女性優遇』は男性4.6%が女性1.6%を、それぞれ上回っている。



(ｸ) 社会全体

◆今回の調査で新しく追加された項目である「社会全体」では、全般的に『男性優遇』と答えた人が多い。性別では、『男性優遇』は女性67.8%が男性61.1%を、『平等』は男性22.7%が女性13.0%を、『女性優遇』は男性6.2%が女性2.5%を、それぞれ上回っており、男女とも『男性優遇』と答えている人が多い。

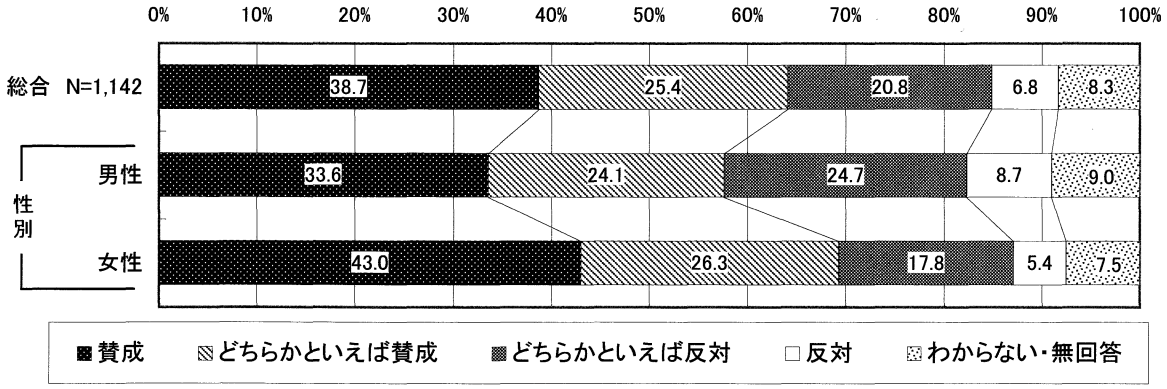


2 結婚や家庭生活について

問2 結婚や家庭生活についての考え方

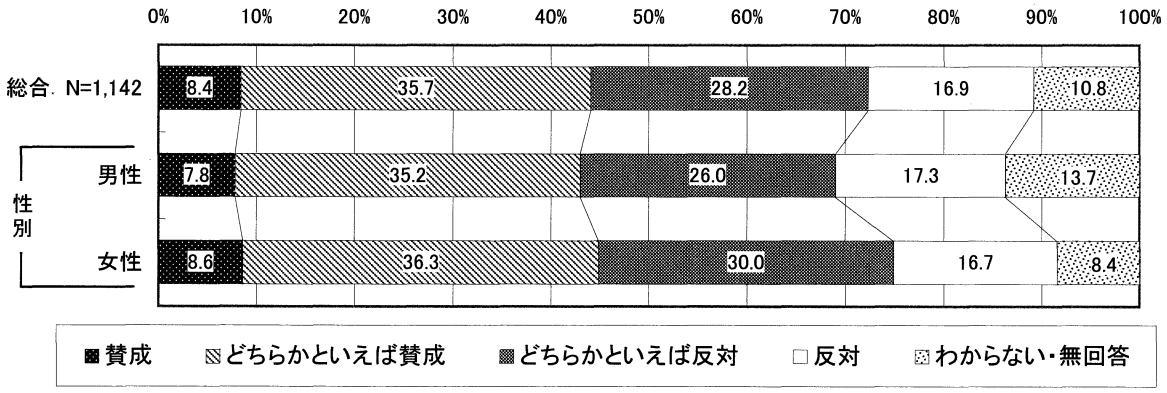
(ｱ) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

◆総合では『賛成』64.1%が『反対』27.6%を36.5ポイントも上回っている。性別では、男性は『賛成』57.7%／『反対』33.4%、女性は69.3%／23.2%となっており、女性の方が結婚の際に個人の意思を尊重する割合が高い。



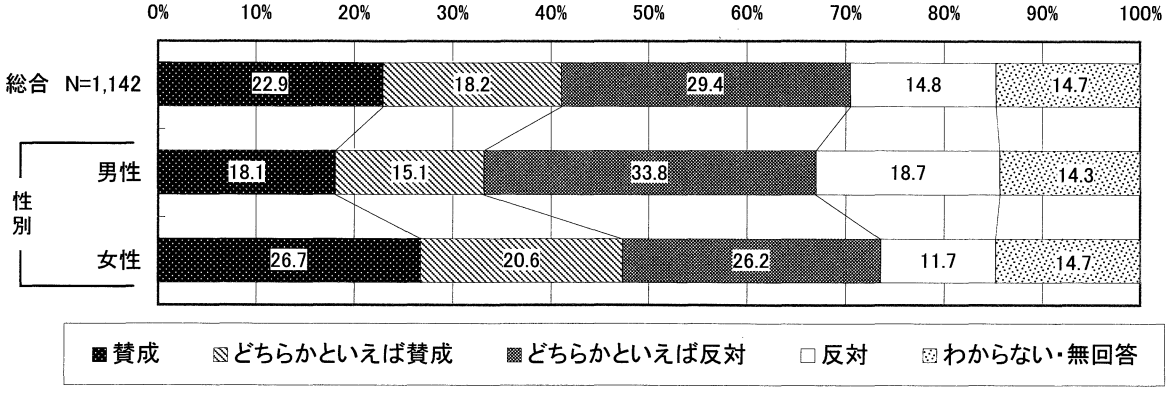
(ｲ) 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

◆総合では『賛成』44.1%に対して『反対』45.1%で、賛否両方に意見が分かれている。性別では、男性43.0%／43.3%、女性44.9%／46.7%で、女性の方が『反対』と答えた比率が高い。



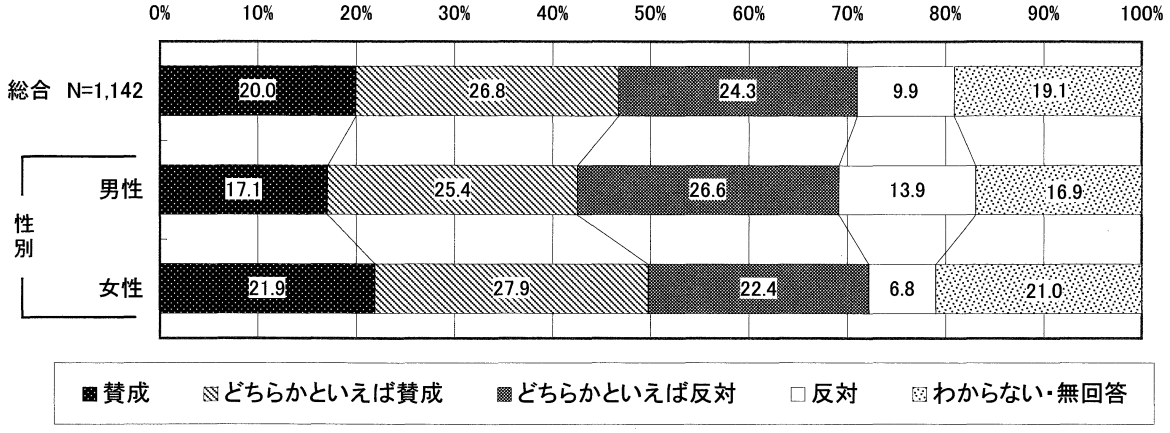
(ｳ) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

◆総合では、『賛成』41.1%に対して『反対』44.2%と、ほとんど差がない。性別では、男性33.2%／52.5%に対して女性47.3%／37.9%と、男性は『反対』、女性は『賛成』の方が多くなっており、性別によって子どもを持つことに対する考えは大きく異なっている。



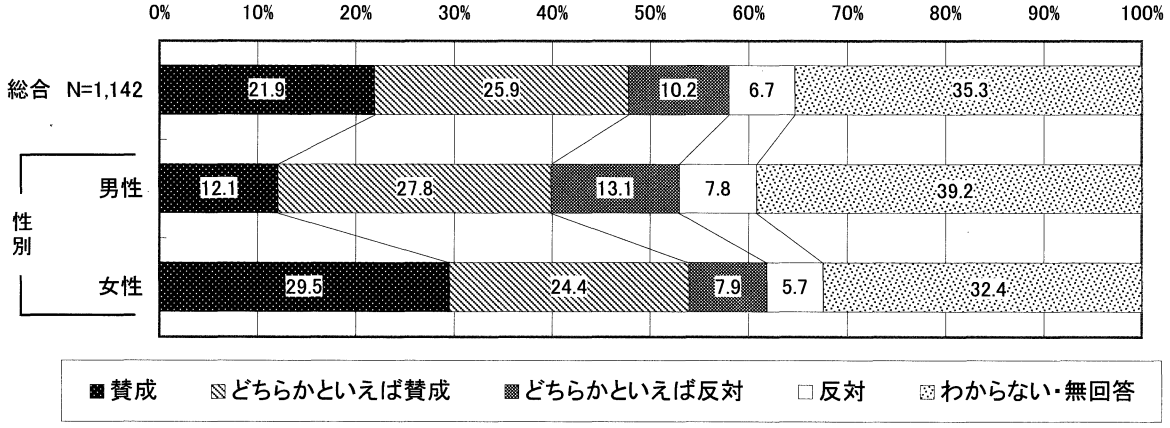
(エ) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

◆総合では、『賛成』46.8%に対して『反対』34.2%と、『賛成』と答えた人が多い。性別では、男性42.5%／40.5%、女性49.8%／29.2%と、女性の方が、離婚の際においても多様な生き方を尊重する割合が高いと言える。



(オ) 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

◆総合では、『賛成』47.8%に対して『反対』16.9%と、『賛成』と答えた人が多い。性別では、男性39.9%／20.9%、女性53.9%／13.6%で、どちらも『賛成』と答えた人の方が多いが、女性はその中でも「賛成」の選択肢を選んだ人が29.5%を占めるなど、女性の方がより強く「女性の方が不利だ」と感じていることが分かる。



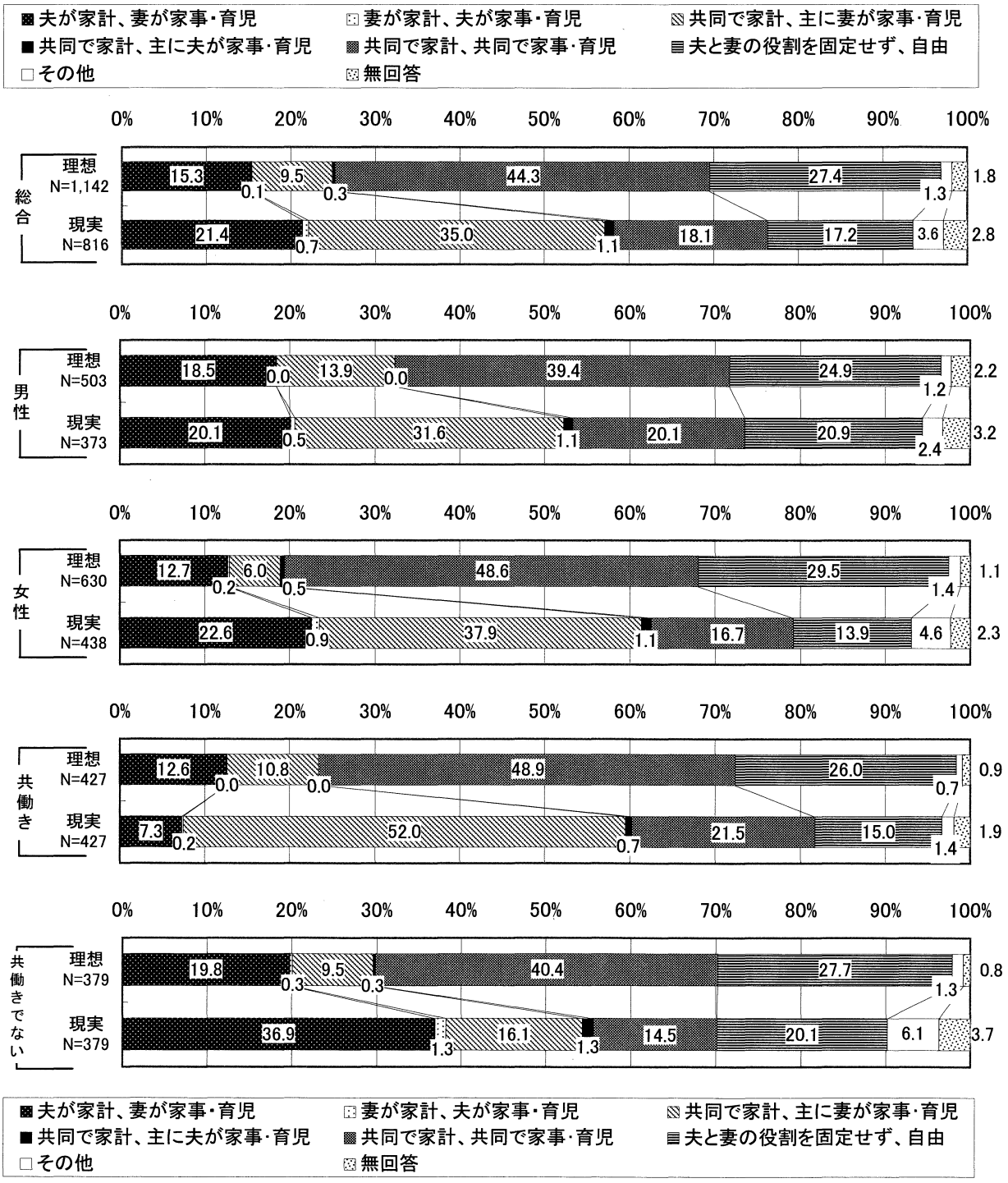
問3-問4　家庭における男女の役割分担の理想－現実の比較

◆家庭における男女の役割分担についての回答を、問3の『理想』と問4の『現実』とで比較すると、両者の間には差異が各項目で見られる。

「共同で家計、主に妻が家事・育児」の理想は男性／女性が13.9％／6.0％（以下同様）に対して現実は31.6％／37.9％と男女とも現実の方が20～30ポイントほど高く、逆に「共同で家計、共同で家事・育児」の理想は39.4％／48.6％、現実は20.1％／16.7％と現実が20～30ポイントほど低い。「夫と妻の役割を固定せず、自由」では、男性の理想が24.9％に対して現実は20.9％と差は少ないが、女性では理想が29.5％に対して現実は13.9％と、15.6ポイントの大きな差がある。

また、共働きであっても、家事・育児は妻が担っている。

このことから、役割分担の理想としては共同で家計・家事を分担もしくは役割を固定しない暮らしを望んでいるものの、現実的には妻が家事・育児を受け持っている家庭が多い、という現状が浮かび上がっている。



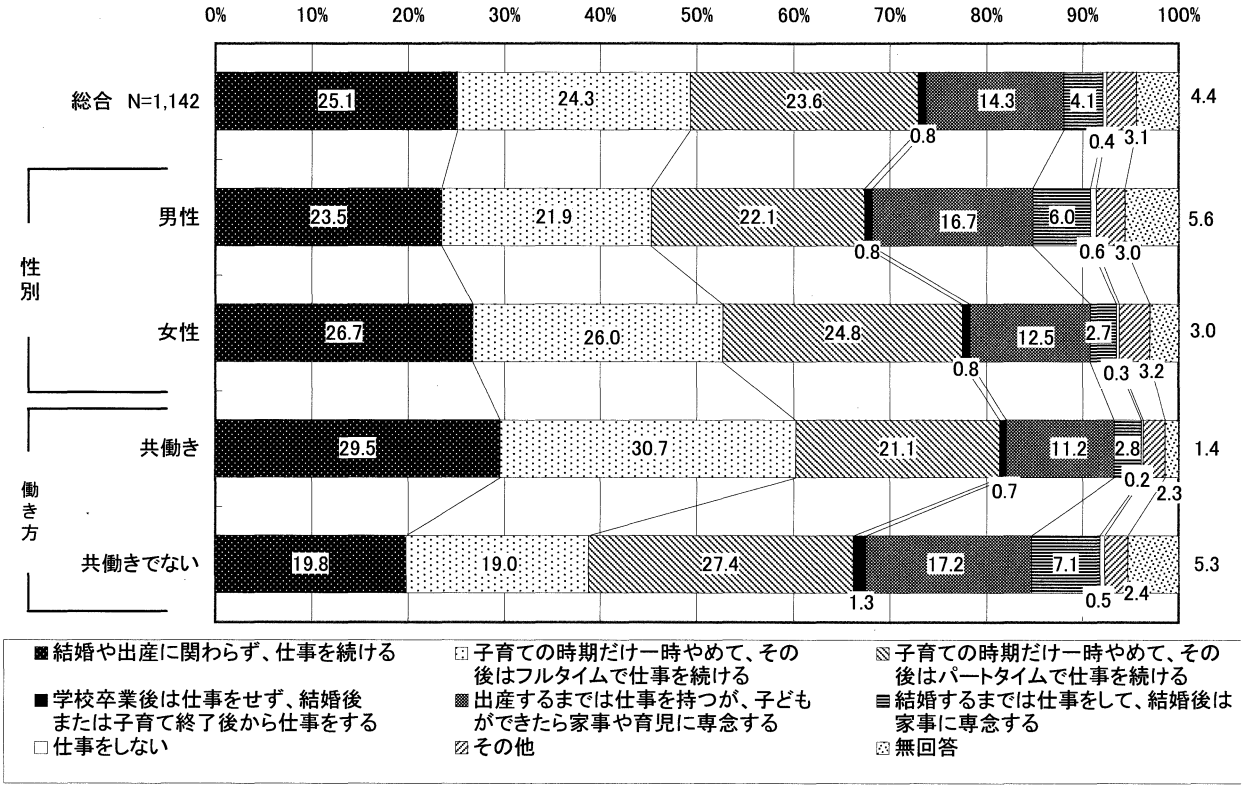
3 職業生活・社会参画について

問5 女性の理想の働き方

◆女性の働き方での望ましい形を聞くと、総合では「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」25.1%、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」24.3%、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」23.6%の3項目を合わせた『結婚、出産後も仕事を続ける』が73.0%と大きな比率を占めているのが特徴。

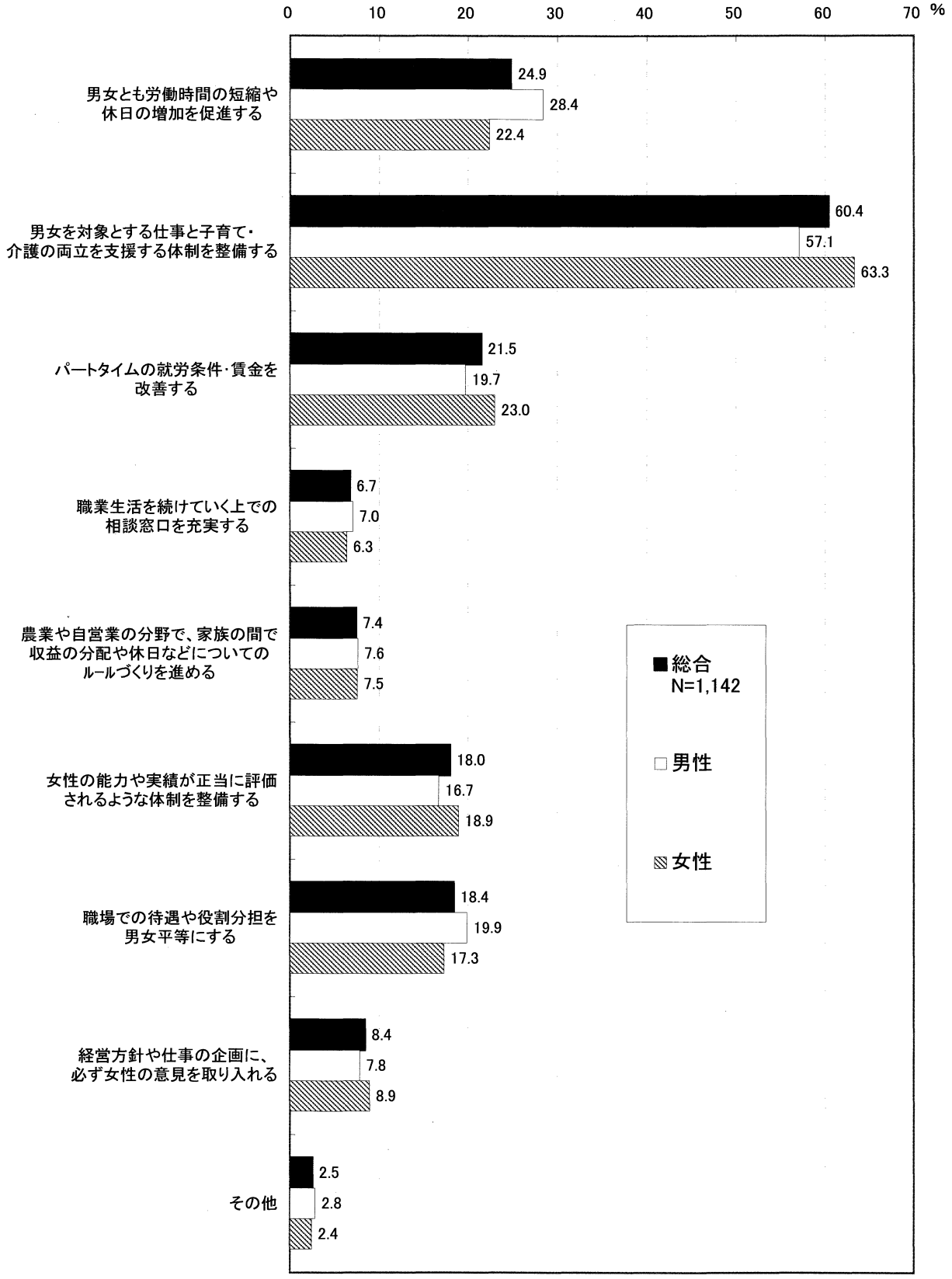
性別では、『結婚、出産後も仕事を続ける』系統の項目はいずれも女性が男性を2～4ポイント程度上回り、合計が男性67.5%に対し女性77.5%と、女性が10ポイント上回る比率で仕事を続けることを望んでいることがわかる。

夫婦の働き方別で見ると、『結婚、出産後も仕事を続ける』は共働き世帯81.3%に対して共働きでない世帯66.2%と、共働き世帯が15.1ポイント上回る比率で仕事を続けることを望んでいることが注目される。



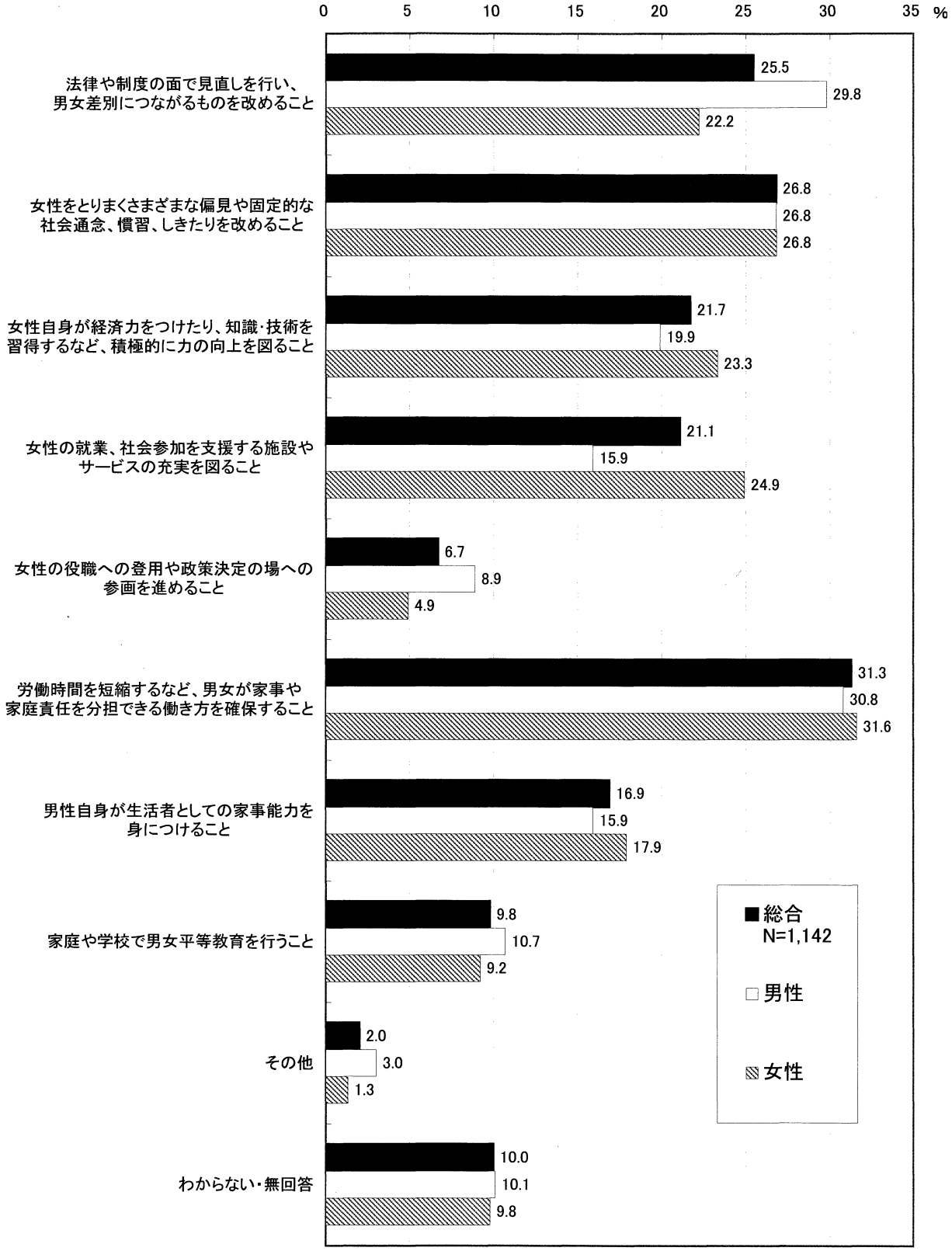
問6　働きやすい環境のため必要な条件

◆「仕事と子育て・介護の両立を支援する体制を整備する」ことを求める声が多いほか、労働時間やパートタイムの就労条件改善を望む意見が集まっている。性別での差は大きくないが、環境に求める条件が多少異なることがわかる。



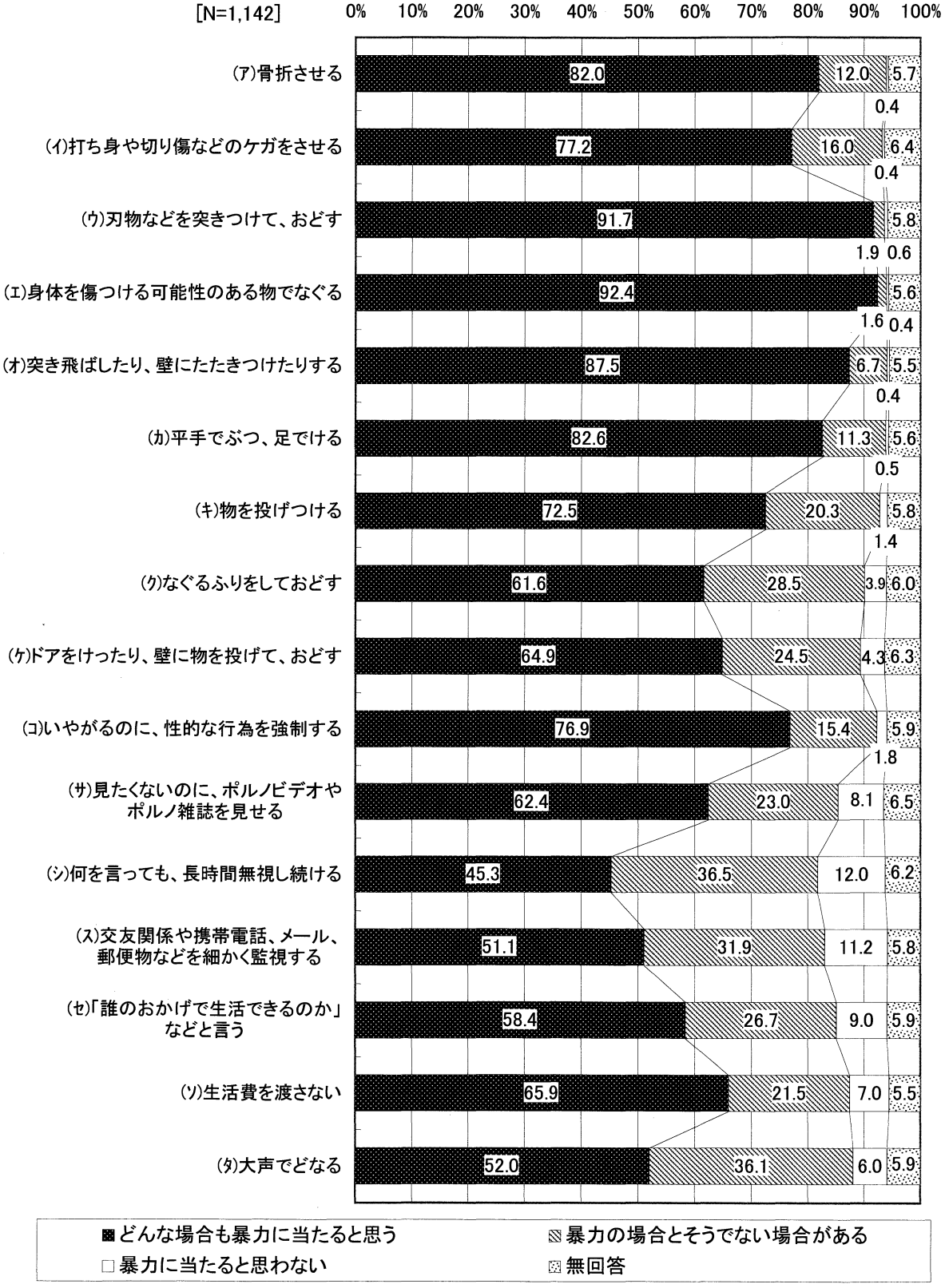
問7　男女共同参画社会実現のための重点項目

◆総合で最も大事だと考えられている「労働時間の短縮など、家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」は、性別に関わらず求められている。次に男性は「法律や制度の見直し」を、女性は「さまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりを改める」ことを多く求めている。



問8　配偶者・恋人からの行為に対する暴力認識

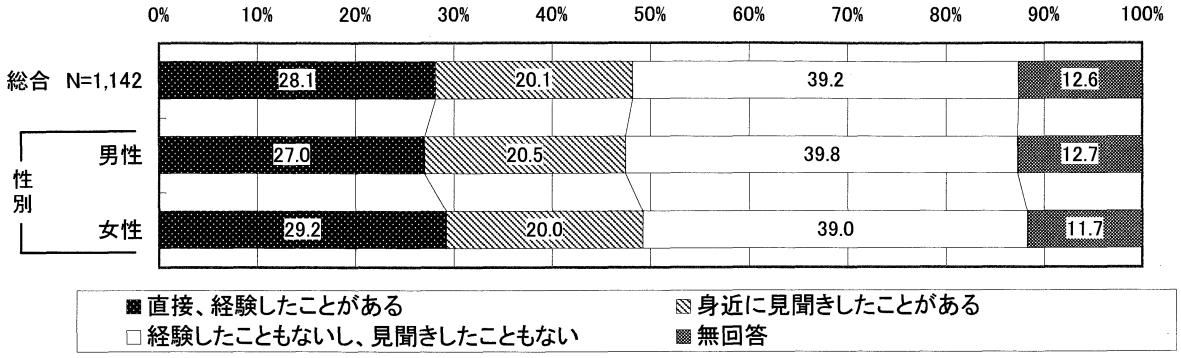
◆身体に直接的被害を及ぼす行為は「どんな場合も暴力に当たる」と答え、直接的には及ぼさない行為は「時と場合による」と答える割合が高い。全般的に女性の方が「どんな場合も暴力に当たる」と答えた比率が高い。



4 ﾄﾞﾒｽﾃｨｯｸ･ﾊﾞｲｵﾚﾝｽ（DV＝夫婦･恋人間の暴力）について

問9 (1)　ＤＶの経験の有無

◆総合、性別に関わらず「経験したこともないし、見聞きしたこともない」が一番高い。「直接、経験したことがある」も3割近くを占めている。



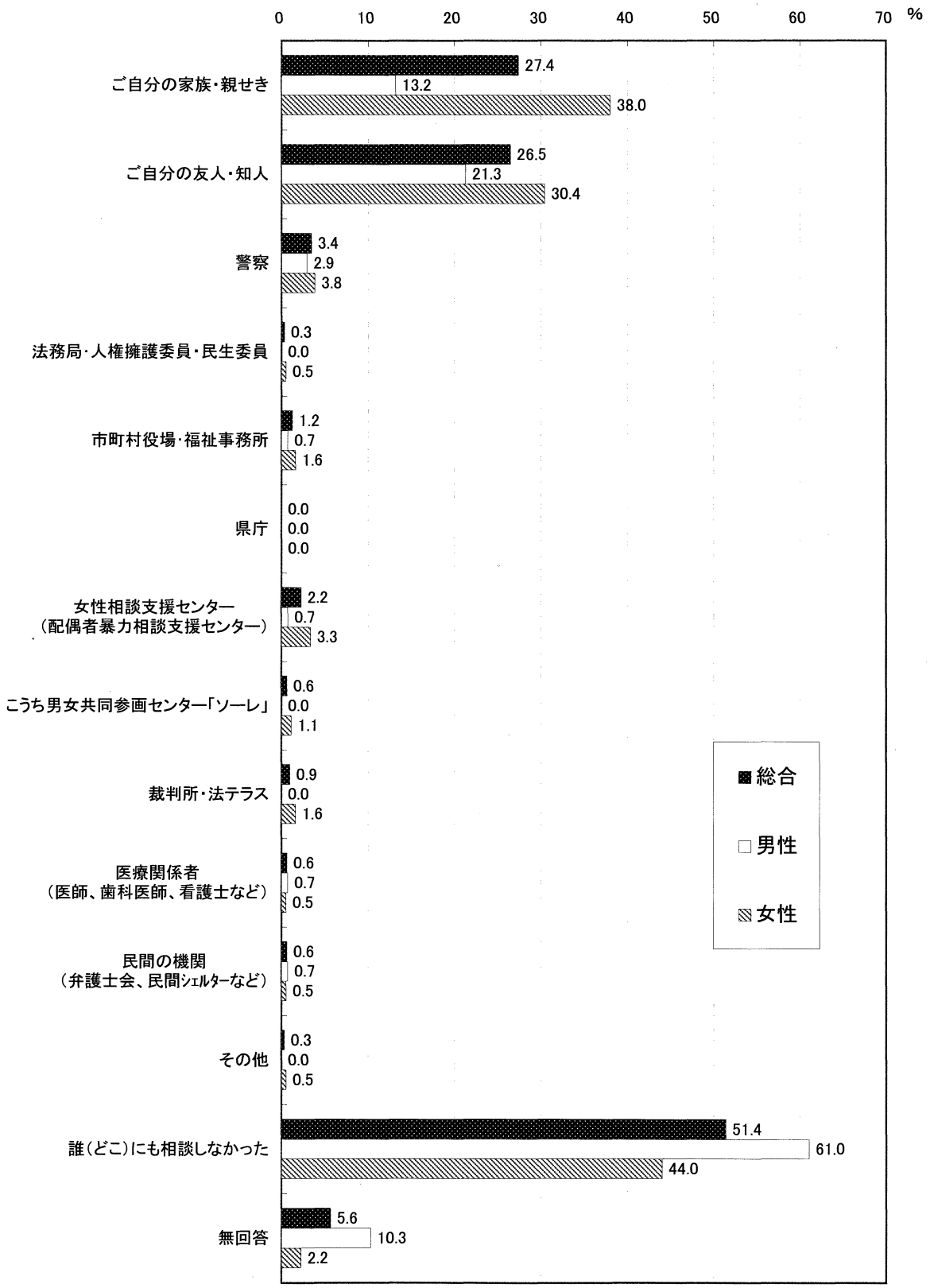
問9 (2)　したこと、されたことのあるＤＶ行為

◆「大声でどなる」行為が、『加害経験』(「何度もした」＋「1,2度した」)、『被害経験』(「何度もされた」＋「1,2度された」)ともに、他の行為と比較しても比率が高く、DVとしての認識が低いままに行為を行っていることが推察される。

〔N=321〕	した		された		どちらもない
	何度もした	1,2度した	何度もされた	1,2度された	
(ｱ)骨折させる	0.6	0.9	0.9	2.2	95.3
(ｲ)打ち身や切り傷などのケガをさせる	0.9	4.7	5.3	8.7	81.3
(ｳ)刃物などを突きつけて、おどす	0.6	0.9	2.5	3.1	92.8
(ｴ)身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	0.9	1.6	2.8	4.0	91.0
(ｵ)突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	2.2	4.7	6.2	7.2	80.7
(ｶ)平手でぶつ、足でける	4.0	10.9	10.9	16.5	61.4
(ｷ)物を投げつける	3.4	11.2	8.4	13.4	65.4
(ｸ)なぐるふりをしておどす	4.4	7.2	8.4	9.7	71.3
(ｹ)ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす	3.4	11.8	10.6	13.1	62.3
(ｺ)いやがるのに、性的な行為を強制する	2.5	0.9	8.1	5.9	82.6
(ｻ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	0.9	1.2	2.2	3.1	92.5
(ｼ)何を言っても、長時間無視し続ける	9.0	10.9	12.1	7.2	63.9
(ｽ)交友関係や携帯電話、ﾒｰﾙ、郵便物などを細かく監視する	2.5	2.2	5.3	1.9	88.8
(ｾ)「誰のおかげで生活できるのか」などと言う	2.2	6.2	9.7	5.9	76.0
(ｿ)生活費を渡さない	1.9	1.9	6.9	2.2	87.2
(ﾀ)大声でどなる	18.7	18.4	26.2	10.6	32.4
(ﾁ)その他	0.3	0.3	2.2	0.3	96.9

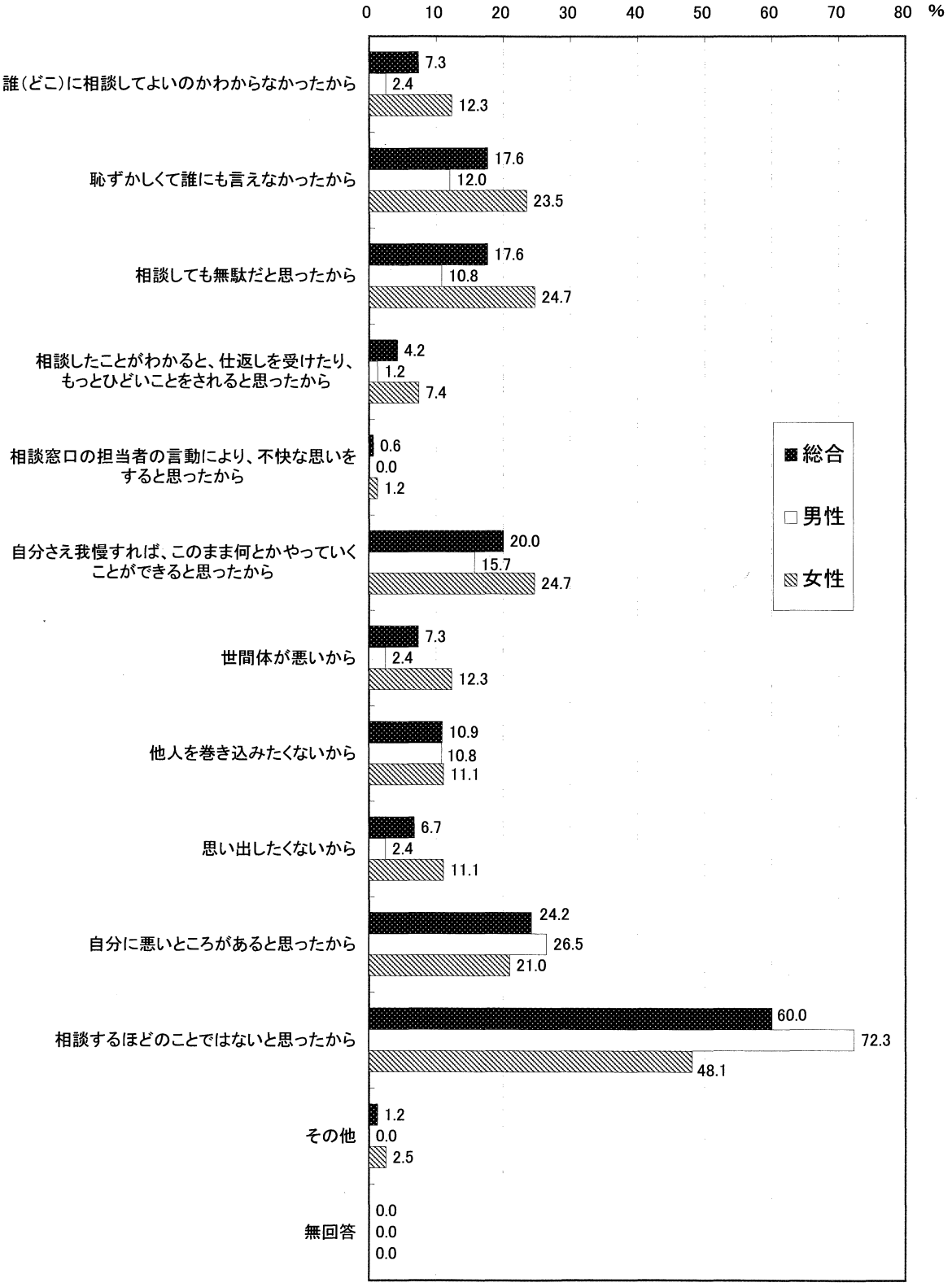
問9 (3)　ＤＶ行為について相談した相手

◆「誰（どこ）にも相談しない」人が半数ほどを占める。相談先としては「家族・親せき」「友人・知人」が多く、公的機関などの外部に相談する人は少ない。男性は「友人・知人」に、女性は「家族・親せき」に相談する人が多い。DV行為について外部に相談しづらい実態が見える。



問9 (4)　ＤＶ行為について相談しなかった理由

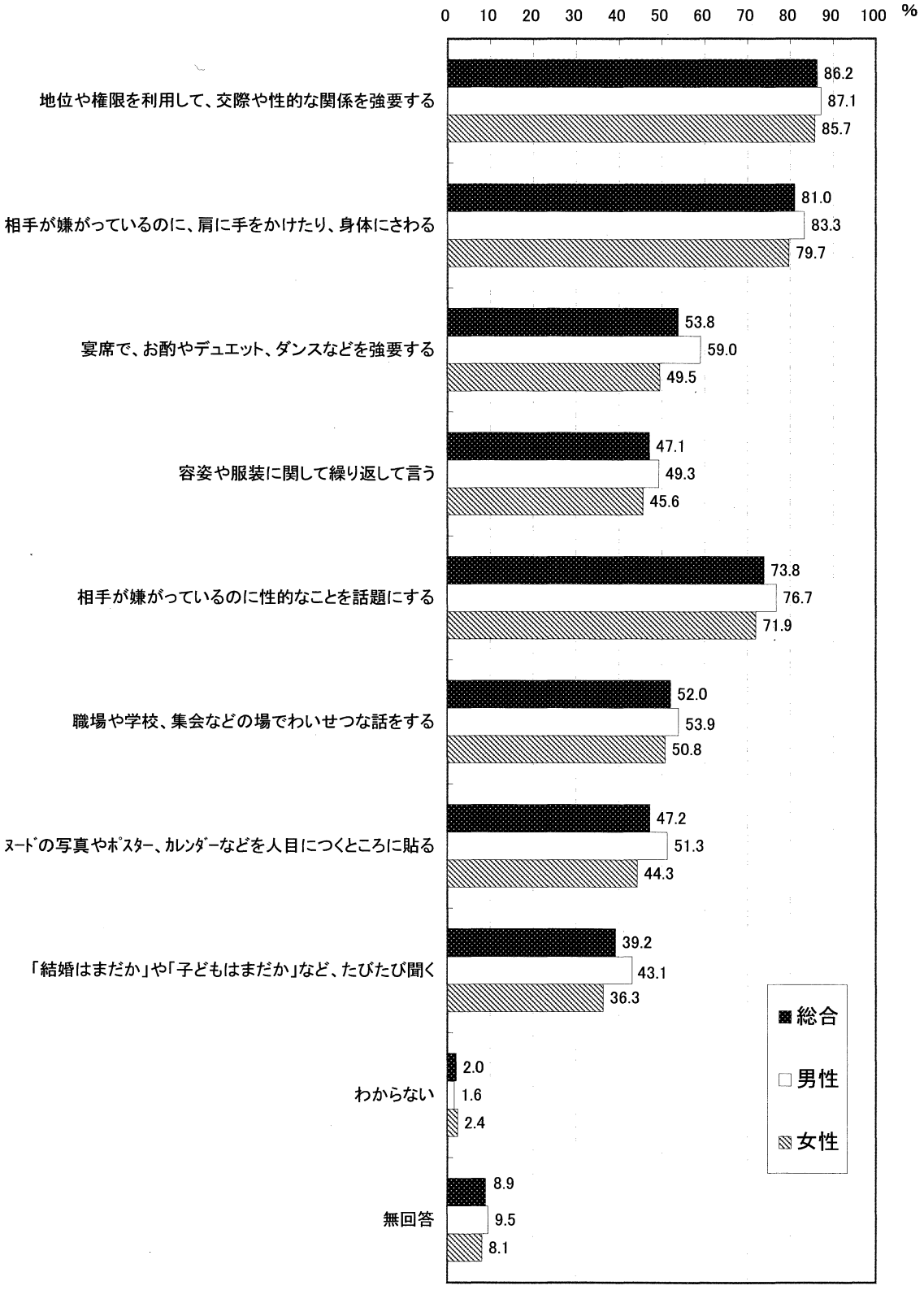
◆6割の人が「相談するほどではなかったから」と答えており、「自分に悪いところがあると思った」「自分さえ我慢すれば」と思って相談しない人や、「恥ずかしいから」「相談しても無駄だから」と答えた人が多いのも注目される。性別では、「相談するほどのことではないと思ったから」は男性が多く、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」は女性が男性の2倍もある。



5 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ＝性的いやがらせ）について

問10　セクハラだと思う行為

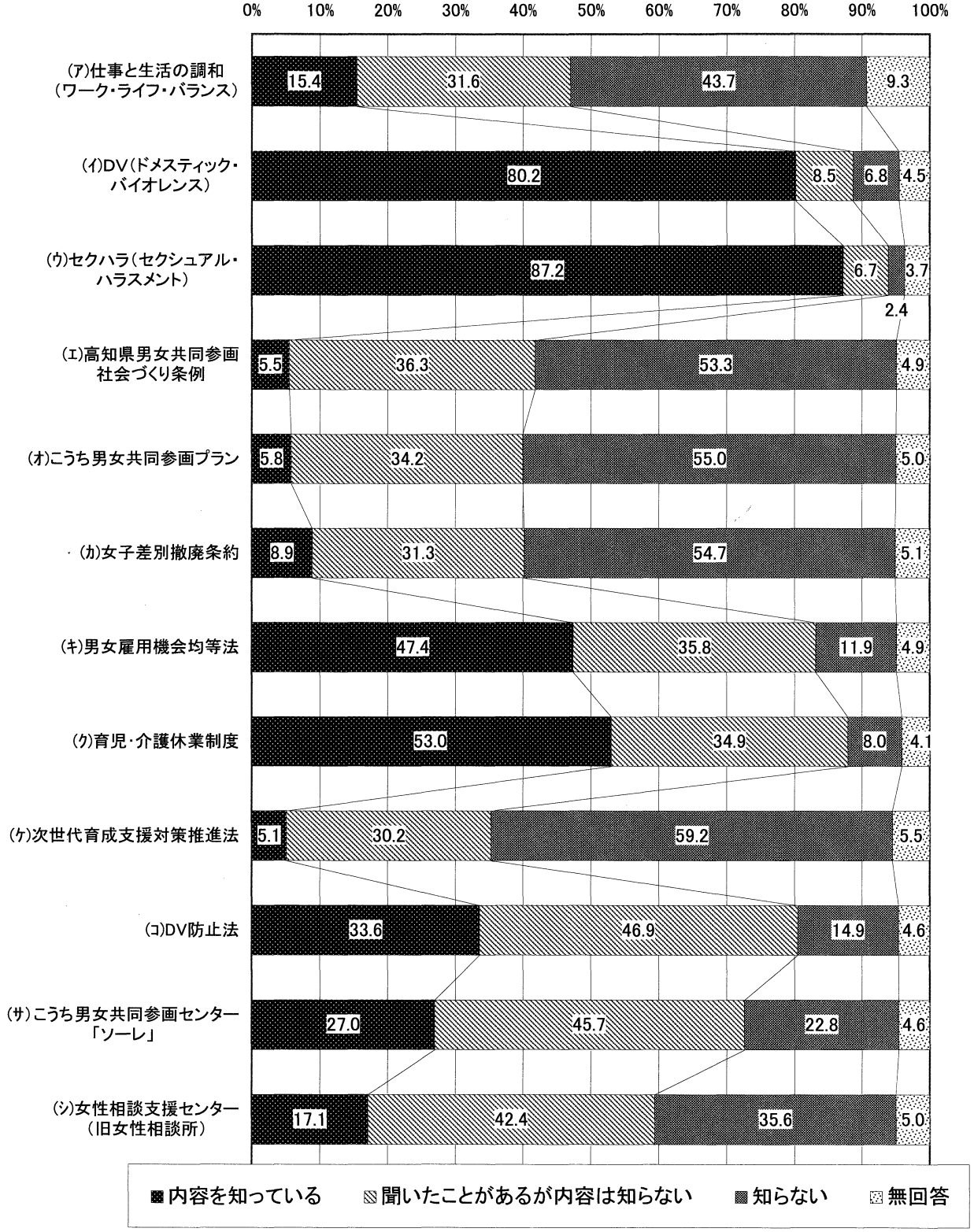
◆すべての項目で、男性の方が女性より「セクハラだと思う」と答えた比率が高い。「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体に触る」などはセクハラとの認識が高い。それに比べ、「容姿や服装に関して繰り返し言う」「結婚、子どものことについてたびたび聞く」など、発言に関してはセクハラと認識する人が少ない。

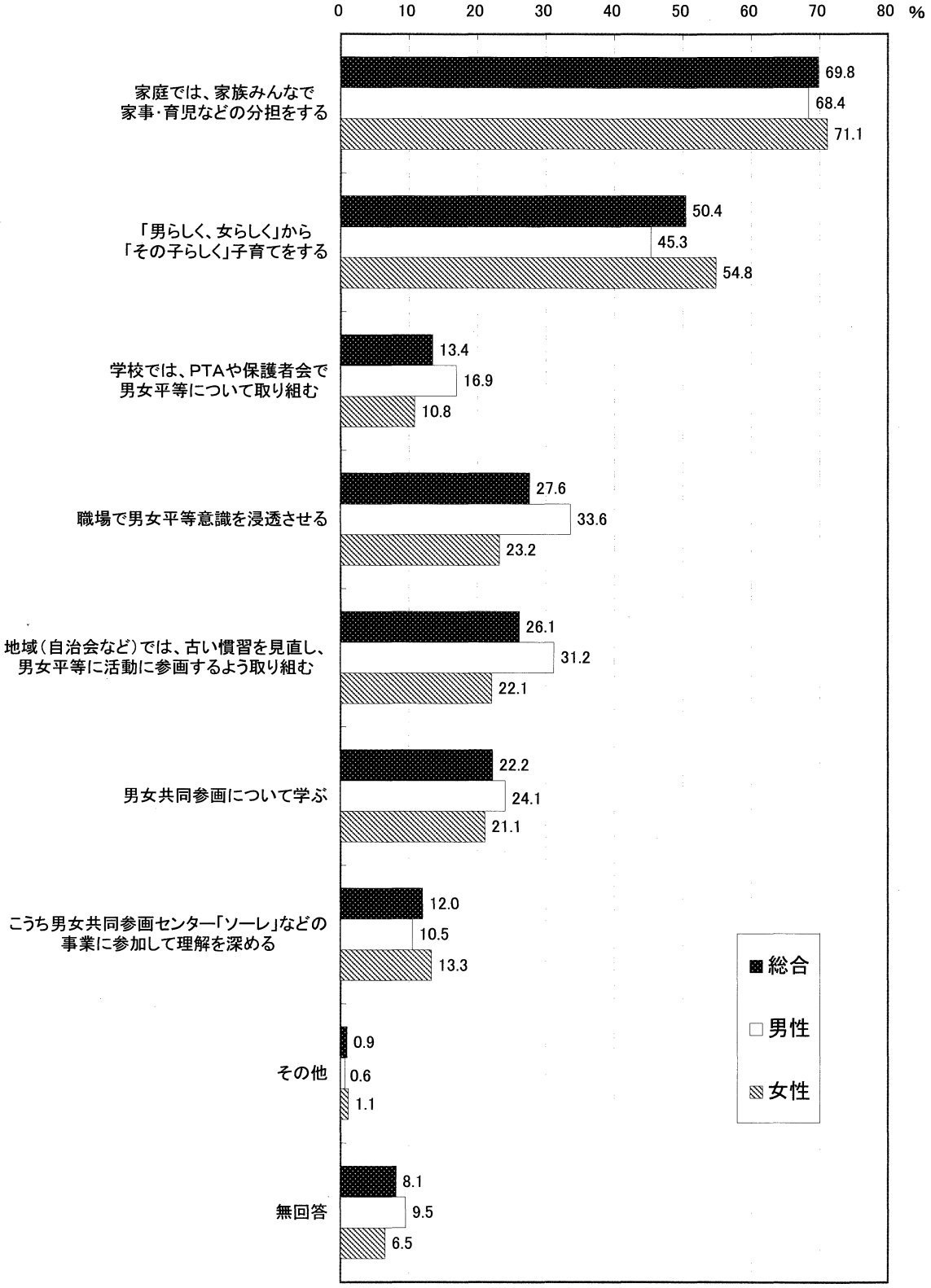


6 男女共同参画の推進について

問11 法律や制度・各種用語の周知度

◆「DV」「セクハラ」については8割以上の人が内容まで知っている。「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業制度」については、約5割の人が内容まで知っているが、3割強の人は名前しか知らない。また、「高知県男女共同参画社会づくり条例」「こうち男女共同参画プラン」「女子差別撤廃条約」「次世代育成支援対策推進方」は半数以上の人が「知らない」と答えている。



問12　男女共同参画社会実現のためにできること

◆総合では、「家族みんなで家事・育児などの分担」や「『その子らしく』子育てをする」と答えた人が多い。性別では、「『男らしく、女らしく』から『その子らしく』子育てをする」などの項目では女性の方が、「職場で男女平等意識を浸透させる」「地域（自治会など）では、古い慣習を見直し、男女平等に活動に参画するよう取り組む」などでは男性の方が高くなっている。